

2021年度第2四半期 決算説明資料



2021年11月5日

M MITSUI E&S

三井E&Sホールディングス

■	2021年度 第2四半期 決算説明	頁
➤	概要	3
➤	2021年度 第2四半期 決算概要	4
➤	2021年度 第2四半期 連結貸借対照表の概要	5
➤	2021年度 第2四半期 連結キャッシュ・フローの概要	6
➤	2021年度 第2四半期 セグメント別決算概要	7-12
➤	海外大型石炭火力発電所土木建築工事について	13
■	2021年度 見通し	
➤	2021年度 連結業績通期見通し	14
➤	2021年度 セグメント別 業績通期見通し	15-16
■	トピック	
➤	船用推進システムのグリーン戦略	17-18
■	参考資料	
➤	設備投資・減価償却費・研究開発費・従業員数	19
➤	新造船・船用ディーゼル機関の状況	20

2021年度 第2四半期 決算概要

◆ 受注高	3,642 億円	(前年同期比 ↑)
◆ 売上高	3,564 億円	(前年同期比 ↑)
◆ 経常利益	▲23 億円	(前年同期比 ↑)

2021年度 見通し

◆ 受注高	4,500~6,500 億円	(前回発表見通し比 →)
◆ 売上高	6,700 億円	(前回発表見通し比 →)
◆ 経常利益	▲50 億円	(前回発表見通し比 ↓)

トピック

- ◆ 船用推進システムのグリーン戦略

(単位：億円)

	20年度 2Q	21年度 2Q	増減
受注高	3,128	3,642	+514
売上高	3,242	3,564	+322
営業利益	▲92	▲45	+47
(営業利益率)	(▲2.8%)	(▲1.3%)	-
経常利益	▲79	▲23	+56
(経常利益率)	(▲2.4%)	(▲0.6%)	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	▲41	26	+67

<期中平均為替レート>

USD	107.40円	110.71円
-----	---------	---------

■ 受注高

新型コロナウイルス感染症の影響が一部残っているものの、モテックにおいて、FPSO建造工事の正式契約が発効された事などにより、前年同期に比べて増加した。

■ 売上高

船舶部門では、船舶建造量の減少により減収となったが、全体としては、手持ち工事の進捗により、前年同期に比べて増収となった。

■ 経常利益

エンジニアリング部門では、為替の影響などにより減益となったものの、海洋開発部門では増収による増益が見られ、新型コロナウイルス感染症の影響が大きかった前年同期に比べ改善した。

2021年度第2四半期 連結貸借対照表の概要

(単位：億円)

	20年度 4Q	21年度 2Q	増減	
資産合計	7,664	7,143	▲521	
(現金預金)	1,376	1,024	▲353	
(受取手形、売掛金及び 契約資産)	2,340	2,314	▲26	
(有形・無形固定資産)	1,585	1,569	▲16	
負債合計	6,705	6,100	▲605	
(支払手形及び買掛金)	2,152	1,906	▲246	主にモデックによるFPSO建造工事の進捗による減少
(前受金、契約負債)	943	1,015	+71	
(受注工事損失引当金)	770	689	▲82	
(有利子負債)	1,645	1,361	▲285	借入金の返済・社債の償還による減少
純資産合計	959	1,043	+84	
(自己資本)	675	782	+107	主に為替換算調整勘定の変動
自己資本比率	8.8%	10.9%		
ネットD/Eレシオ	0.4倍	0.4倍		

(単位：億円)

	20年度 2Q	21年度 2Q	増減	
営業CF	49	▲40	▲89	主にFPSO建造工事の支出が増えた事による減少
投資CF	73	▲44	▲117	主に固定資産の売却による回収が減少
フリーCF	122	▲84	▲206	
財務CF	▲58	▲307	▲250	借入金の返済・社債の償還による減少

2021年度第2四半期 セグメント別決算概要

(単位：億円)

	受注高			売上高		
	20年度 2Q	21年度 2Q	増減	20年度 2Q	21年度 2Q	増減
船舶	222	163	▲59	403	263	▲140
海洋 開発	1,677	2,553	+877	1,565	2,282	+717
機械	644	742	+97	701	713	+12
エンジニア リング	164	12	▲152	188	47	▲141
その他	421	171	▲250	386	259	▲127
合計	3,128	3,642	+514	3,242	3,564	+322

2021年度第2四半期 セグメント別決算概要

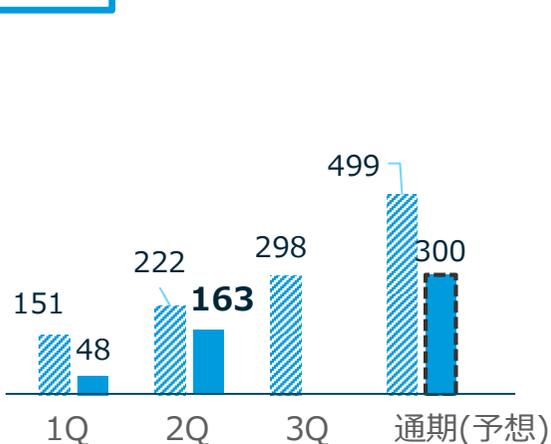
(単位：億円)

	営業利益			経常利益		
	20年度 2Q	21年度 2Q	増減	20年度 2Q	21年度 2Q	増減
船舶	▲16	▲10	+6	0	▲3	▲2
海洋 開発	▲121	▲34	+88	▲97	4	+101
機械	38	15	▲22	38	16	▲22
エンジニア リング	▲1	▲34	▲33	▲2	▲38	▲36
その他	8	18	+10	▲18	▲2	+15
合計	▲92	▲45	+47	▲79	▲23	+56

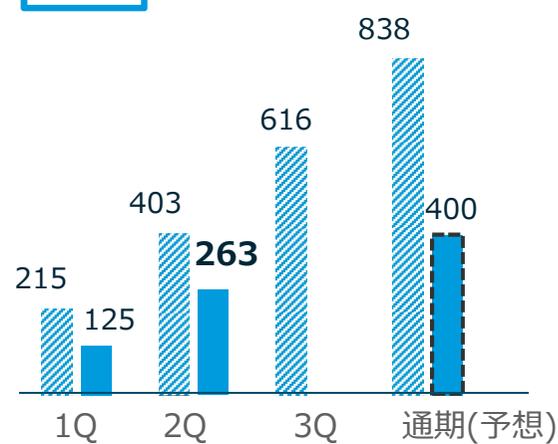
■ 2020年度 ■ 2021年度

(単位：億円)

受注高



売上高



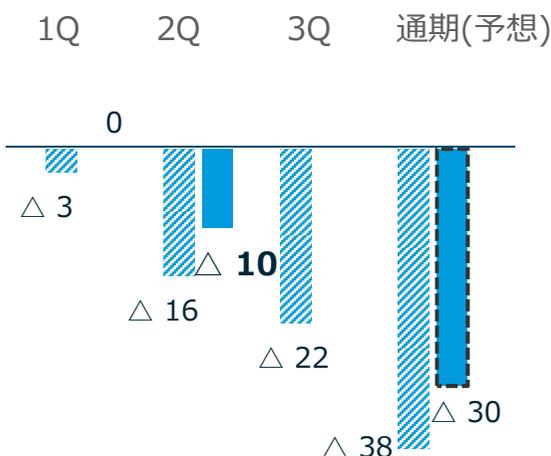
■ **受注高**：前年同期比 ▲59億円

三井E&S造船において新造船の受注を行わなかったため、前年同期に比べて減少しているが、新たな事業となる船舶設計の受注を獲得しており、今後とも国内造船所を中心に受注活動を展開していく。

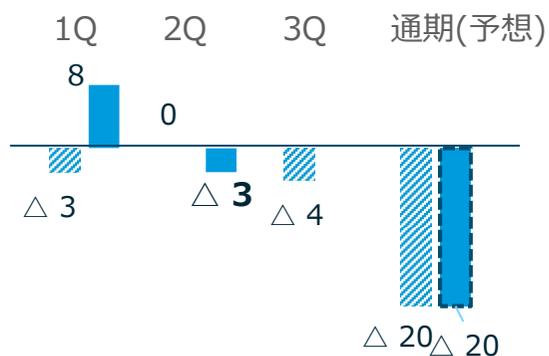
■ **売上高**：前年同期比 ▲140億円

船舶建造工事量の減少に伴い、前年同期に比べて減収となっているが、概ね計画通りに推移。

営業利益



経常利益



■ **経常利益**：前年同期比 ▲2億円

損失工事の減少などにより、営業損益は改善したものの、為替差損の発生などにより、前年同期に比べて減益となった。

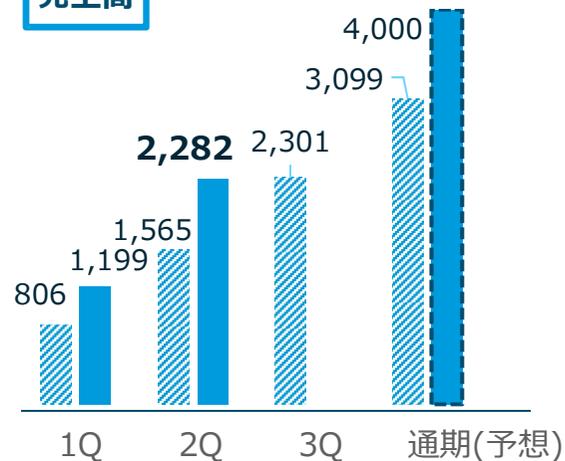
■ 2020年度 ■ 2021年度

(単位：億円)

受注高



売上高



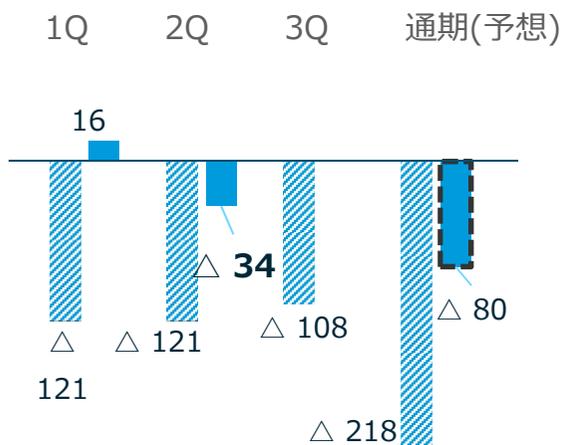
■ **受注高**：前年同期比 +877億円

エクイノール社バカリヤウ鉱区向けFPSO建造工事の正式契約が発効された事などにより、前年同期に比べて増加した。

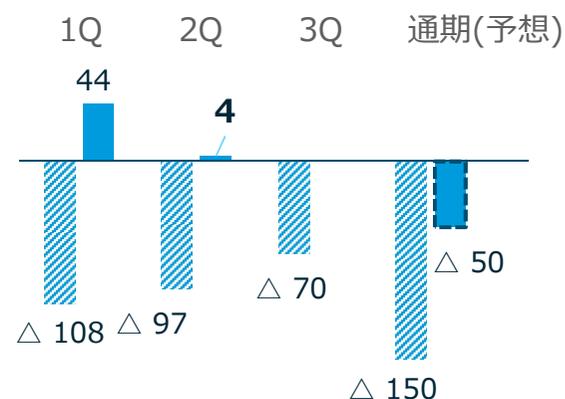
■ **売上高**：前年同期比 +717億円

7隻のFPSO建造工事の進捗により、前年同期に比べて増収となった。

営業利益



経常利益

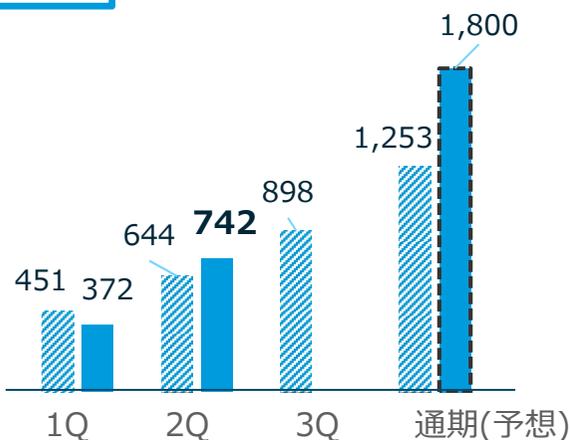


■ **経常利益**：前年同期比 +101億円

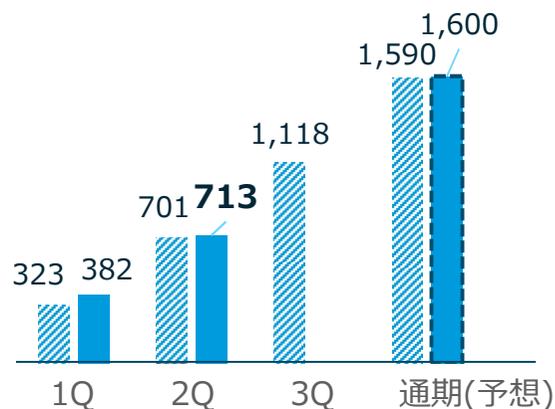
新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の工事において進捗遅れによる追加費用が発生したが、前年同期に比べると増益となった。

■ 2020年度 ■ 2021年度 (単位：億円)

受注高



売上高



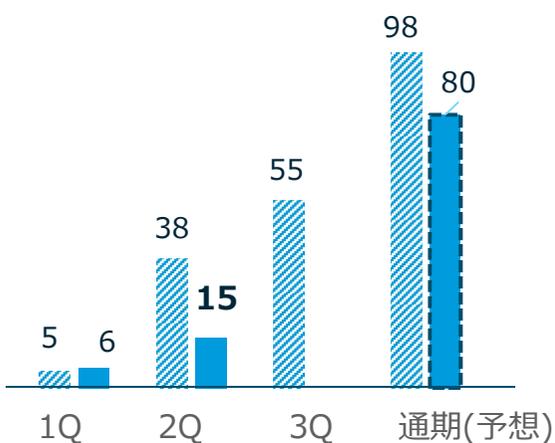
■ **受注高**：前年同期比 +97億円

コンテナクレーンや産業機械の海外案件が一部先送りになるなど、新型コロナウイルス感染症の影響が残るものの、船用ディーゼル機関は回復基調にあり、前年同期に比べて増加となった。

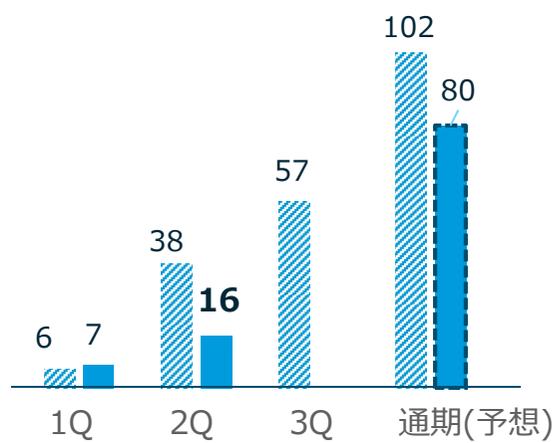
■ **売上高**：前年同期比 +12億円

昨年度、受注が低調となった船用ディーゼル機関と産業機械は前年同期に比べて減収となったが、アフターサービスやコンテナクレーンが堅調に推移し、全体としては、前年同期に比べて増収となった。

営業利益



経常利益



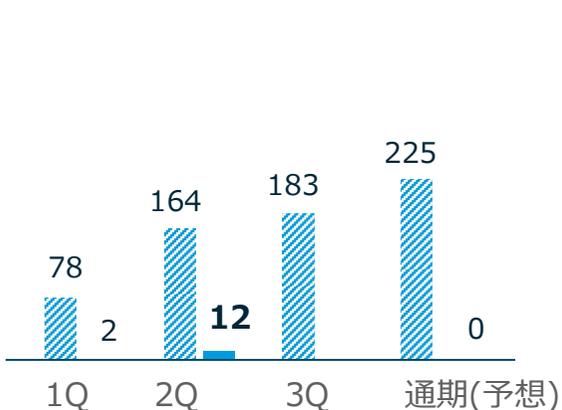
■ **経常利益**：前年同期比 ▲22億円

新型コロナウイルス感染症の影響による工事量の減少などにより、船用ディーゼル機関の損益が低調に推移し、前年同期に比べて減益となった。

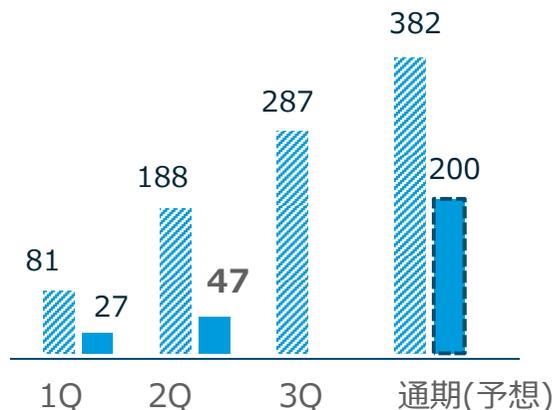
■ 2020年度 ■ 2021年度

(単位：億円)

受注高



売上高



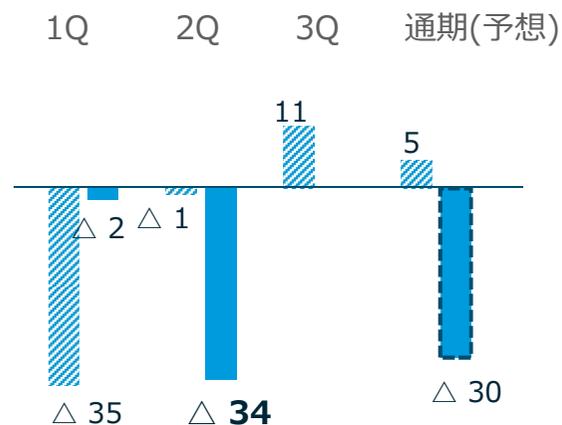
■ **受注高**：前年同期比 ▲152億円

三井E&S環境エンジニアリングの株式を売却した事に加え、現在は新規案件の受注活動を行っていないことから、前年同期に比べて減少となった。

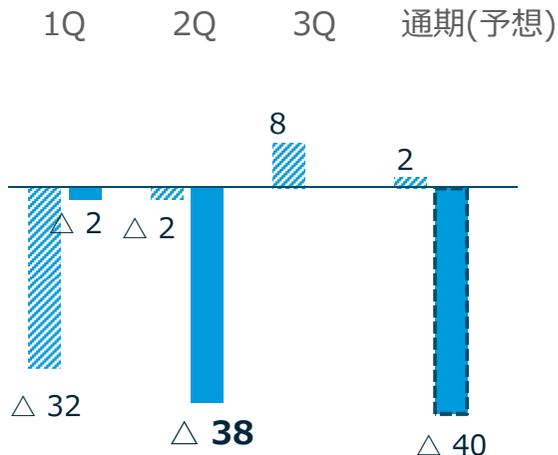
■ **売上高**：前年同期比 ▲141億円

手持ち工事が進捗した一方、三井E&S環境エンジニアリングの株式を売却した事により、前年同期に比べて減収となった。

営業利益



経常利益



■ **経常利益**：前年同期比 ▲36億円

インドネシアの石炭火力発電所土木建築工事において、為替の影響による売上原価の増加などがあり、前年同期に比べて減益となった。

■ 大型石炭火力発電所土木建築工事の状況

プロジェクト	地域	工事進捗率	
		21年度1Q	21年度2Q
1	インドネシア	約81.8%	約82.6%
	引当金残高 :	646億円	618億円
2	インドネシア	約99.8%	約99.8%

- インドネシアにおける新型コロナウイルスの新規感染者数は7月をピークに減少傾向
 - 引き続き現場では適切な感染対策を取るとともに、ワーカーへのワクチン接種を推進し、工事遂行中
- プロジェクト1の工事損益は、19年度2Qに追加損失を計上した際の引当金の範囲内で推移
- プロジェクト2は、Cooling Water管設置工事終盤で若干の手直し等が生じた。但し、手直しを含め据付は完了し、今後の追加コストはない

(単位：億円)

	前回見通し (2021/5/11)	今回見通し (2021/11/5)	増減
受注高	4,500~6,500	4,500~6,500	—
売上高	6,700	6,700	—
営業利益	50	▲40	▲90
経常利益	60	▲50	▲110
親会社株主に帰属する 当期純利益	30	▲30	▲60
フリーCF	▲1,230	▲930	+300
有利子負債	2,300	2,000	▲300

※ 前提為替レート US\$ = 110円

※ US\$ 1円の円高が営業利益に与える影響⇒約2億円の悪化

2021年度 セグメント別 業績通期見通し

(単位：億円)

	受注高			売上高		
	前回見通し (2021/5/11)	今回見通し (2021/11/5)	増減	前回見通し (2021/5/11)	今回見通し (2021/11/5)	増減
船舶	300	300	—	400	400	—
海洋 開発	2,000～ 4,000	2,000～ 4,000	—	4,000	4,000	—
機械	1,800	1,800	—	1,600	1,600	—
エンジニア リング	0	0	—	200	200	—
その他	400	400	—	500	500	—
合計	4,500～ 6,500	4,500～ 6,500	—	6,700	6,700	—

※ 前回見通しから、変更はございません

2021年度 セグメント別 業績通期見通し

(単位：億円)

	営業利益			経常利益		
	前回見通し (2021/5/11)	今回見通し (2021/11/5)	増減	前回見通し (2021/5/11)	今回見通し (2021/11/5)	増減
船舶	▲30	▲30	—	▲20	▲20	—
海洋 開発	0	▲80	▲80	60	▲50	▲110
機械	90	80	▲10	90	80	▲10
エンジニア リング	▲20	▲30	▲10	▲40	▲40	—
その他	10	20	+10	▲30	▲20	+10
合計	50	▲40	▲90	60	▲50	▲110

▶ アンモニア焚きエンジンの開発状況

～ 新たな設備投資・研究開発を積極的に展開 ～

- ✓ NEDO／アンモニア燃料船開発と社会実装の一体型プロジェクトのグリーンイノベーション基金事業採択

→ 伊藤忠商事株式会社を幹事企業とするコンソーシアムプロジェクト、助成金額約20億円

- ✓ MAN-ESとの協業によりアンモニア焚きエンジンと燃料供給システムの開発を推進

→ 2024年度の商用初号機完成、2027年度以降、年間10基以上の受注獲得を目指す

- ✓ 2021～2022年度 陸上試運転用アンモニア供給設備他

→ 玉野機械工場の新規設備投資に着手

※NEDO：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、MAN-ES：MAN Energy Solutions

➤ 開発エンジンのラインアップ

使用可能燃料	プロジェクト概要	実績数	機関形式
LNG	LNG燃料船、LNG運搬船	7基	ME-GI
エタン	液化エチレンガス運搬船	3基	ME-GIE
メタノール	メタノール運搬船	3基	ME-LGIM
LPG	LPG/アンモニア運搬船	2基	ME-LGIP



LNG燃料ディーゼルエンジン

➤ その他アンモニア焚きエンジン開発関連の取り組み

- ✓ 2021年10月 MOL・MAN-ESと、アンモニア焚きエンジン受注に向けた基本協定書締結

グリーン戦略として、アンモニア焚きエンジンの商用化に注力

※ MOL : 株式会社商船三井、 MAN-ES : MAN Energy Solutions

(単位：億円)

	20年度 2Q実績	20年度 実績	21年度 2Q実績	21年度 見通し
設備投資	53	127	67	123
減価償却費	63	127	60	—
研究開発費	11	34	10	36
連結従業員数	13,644人	12,703人	11,878人	—

新造船受注内訳 (三井E&S造船)

(隻)

	受注 (累計)	引渡 (累計)	受注残
一般商船	0	1	0
艦船・官公庁船	0	1	6
合計	0	2	6

船用ディーゼル機関 (三井E&Sマシナリー)

	20年度 2Q累計		21年度 2Q累計		21年度 見通し	
	基数	馬力数 (万馬力)	基数	馬力数 (万馬力)	基数	馬力数 (万馬力)
受注	68	124	57	168	—	—
売上	76	167	63	144	—	—
受注残	89	202	62	145	—	—
生産実績	77	183	58	131	125	300



MITSUMI E&S

社会に人に信頼されるものづくり企業であり続けます

To continue working as a company trusted by society and individual through products and services we offer

本資料のうち、当社の業績見通し、目標、計画、戦略等には将来に関する記述が含まれております。これらは現時点で把握可能な情報に基づき当社が合理的に判断した見通しであり、既知、未知のリスクや不確実性を含んでおります。従いまして、将来における当社の実際の業績または展開が大きく異なる可能性がございます。